Kodak

# Magnus VLF プレートセッターと ExThermo TP-W サーマルプレートは、クライアントの品質要求レベルが高い大判ポスターの印刷に欠かせない「道具」です。

A 倍判対応の Magnus VLF が A 倍判から菊四裁判まで、5 サイズ 9 台の印刷機に刷版を供給。ハリウッドの巨匠も絶賛した大判映画ポスターをはじめ、化粧品、アパレル、飲料など幅広い分野で、消費者を魅了するポスターや写真集など様々な印刷物を受注。

## 大手ブランド、デザイナーが認める質の高い印刷表現技術

株式会社ポスター印刷は、磨き抜かれた印刷技術と蓄積された経験を駆使して、極めて質の高い印刷物を仕上げる、印刷業界でも異彩を放つ存在だ。社名が示す通り、商業用ポスターの分野では業界屈指の技術を誇り、化粧品、アパレル、飲料、エンターテインメントなど幅広い業種で数多くのブランドを手がけている。業種によって要求される表現が異なるにも関わらず、期待を裏切らない見事な印刷表現で、立ち会いに訪れたクライアントやデザイナーの心を虜にしている。受注先は大手印刷会社をはじめとする同業他社が中心だが、最終クライアントからの業者指名が多く、価格競争に巻き込まれることもない。板橋区に本社を構え、近くに印刷工場、刷版工場、製本工場を、足立区にも印刷工場を構え、製版から印刷、後加工まで一貫した生産体制を構築している。印刷機はポスター印刷に欠かせない A 倍判印刷機 2 台の他、四六全判から菊四裁判まで合計 9 台 53 胴を擁し、ポスターだけではなく、ハガキから書籍カバー、写真集、中吊り広告など幅広い商業印刷物を手がけている。

代表取締役　高橋 克俊 氏

常務取締役　小松 義男 氏

## 実績、コスト、サポート力などを総合評価し、Magnus VLF の導入を決断

同社が初めて CTP を導入したのは 2007 年のこと。デジタル製版の比率が増え、外注していた刷版出力の内製化が主な目的だった。A 倍判出力を前提に、国内外の全メーカーを比較検討したが、最後は Kodak Magnus VLF プレートセッターと Kodak ExThermo TP-W サーマルプレートに決定した。その理由について代表取締役の高橋 克俊氏は次のように話している。

「Magnus VLF は私たちに必要な機能とソフトを標準で網羅している、コストパフォーマンスにすぐれたマシンです。他社製 CTP では、オプション機能の追加購入が必要でしたが、コダックでは、そのようなことはなく、とても良心的だと感じました。当時話題を集めていた Staccato FM スクリーンによる高精細印刷も、他社との差別化に役立つと考えて導入を決断しました」

VLF マシンとしての海外での圧倒的な実績や、CTP と版材のサポートをコダック 1 社に任せられることなども高く評価した上での決定だった。CTP 導入の効果は印刷現場にすぐ現れた。常務取締役の小松義男氏は「刷版の焼き加減を数値で正確に指定できるので、これまで以上に正確に色をコントロールできるようになった」と話している。同社では仕事内容にあわせて、印刷機の機

製版工場 2F に設置された 2 台の Magnus VLF

本社工場に導入した 2 台の A 倍判印刷機（写真は 7 色機）

長が刷版の焼き加減を細かく指定していた。プルーフに忠実なだけなら簡単だが、それではクライアントが満足しない。プルーフにはない深みと迫力のある印刷物を仕上げるためには、刷り上がりを想定しながら、網点を微調整しなくてはならない。同社の機長たちは、製版と印刷が相互に影響しあう加減を見抜いた上で、最適な数値を指示するのだ。製版部部長の川那部 重樹氏も「機長の指示通り刷版を出力すれば、間違いない」と断言する。通常、印刷会社は自社の色基準を設定して、品質の標準化を図ろうと努力する。しかし同社は標準化の先にある、印刷表現の限界に挑んでいると顧問の小川敏雄氏は強調する。

「機械のメンテナンスを徹底し、印刷品質を安定させるのは基本中の基本です。当社が目指すのは、標準化の先にある印刷表現です。4 色原稿を補うために、時には特色をプラスして、色に深みを与えることも厭いません」

一見、職人芸の世界のようにも思えるが、そうではない。「型を知らなくては、型を破れない」ように、印刷に関する豊富な技術と知識が身についているからこそ、「道具」を恐れることなく自由に扱えるのだろう。

## 刷版、ワークフロー、FM スクリーンも好評で、2012 年には 2 号機の増設を決断

川那部部長は Kodak Prinergy EVO ワークフローシステムの信頼性を高く評価する。

「他社製 RIP と比べ、Prinergy はオープンで信頼性にすぐれています。細かな制約がなく、どんなデータでも確実に出力でき、操作もシンプルです。サポートについてもレスポンスがとても早く大変満足しています」

小松常務は他社製刷版をテストした結果も踏まえた上で、コダックの ExThermo TP-W について、次のように高く評価してくれた。

「そのまま出力しても充分きれいですが、少し手を加えるだけで、網点のバランスが抜群に良くなります。保水性にもすぐれ、汚れにくいので、水は極限まで絞れます。ベタは濃く、網点もシャープに再現できます」

Staccato FM スクリーンによる高精細印刷も、写真集や高級ブランドのパンフレットなどで活躍しているそうだ。そして 5 年後の 2012 年、同社は Magnus VLF の 2 号機を導入したが、高橋社長に迷いはなかった。

「フル稼働すれば、1 台でも間にあったのですが、CTP が 9 割を超えて、2 台目を導入するちょうど良いタイミングだと判断しました」

同社では万一、機械にトラブルが発生してもお客様に迷惑がかからないよう、主要設備については 2 台体制を構築している。Magnus VLF の 2 号機導入も「お客様第一」を掲げる同社の企業姿勢そのものだった。小川顧問は、2 号機の導入効果について次のように話している。

「下版が重なっても、CTP が 2 台あれば、印刷現場に待ち時間なしで版を供給できます。またオートローダーを搭載した新しい Magnus は、カセット交換なしで、サイズの異なる版を連続出力できるため、オペレータの負担軽減に役立っています」

導入から 2 年が経った今、2 台の Magnus VLF は毎日休みなく動いているそうだ。色に対する徹底的なこだわりを追求し続ける同社にとって、コダックのサーマル CTP ソリューションが、欠かすことのできない「道具」となっていることは間違いない。

顧問　小川 敏雄 氏

製版部 部長　川那部 重樹 氏

### 株式会社ポスター印刷

代表取締役　高橋 克俊
本社所在地
〒174-0041　東京都板橋区舟渡 3-8-3
TEL：03-3966-8273（代）　FAX：03-3558-7826
http://www.poster-prt.com/

**コダック 合同会社**　グラフィック　コミュニケーション事業本部
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9　TEL.03-5577-1200
大阪：06-6105-9670　名古屋：052-746-1290　福岡：092-707-0180
仙台：022-290-2070　札幌：011-590-5070　金沢：076-200-9583
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com
http://www.kodak.co.jp

2014-12